

介護老人保健施設

ほのぼの苑

だより

発行所
〒018-1401
潟上市昭和久保字街通下92-1

医療法人 正和会
介護老人保健施設
ほのぼの苑

TEL (018) 877-7115
FAX (018) 877-7481

ホームページ
<http://www.seiwakai-akita-nol.or.jp>

編集責任者 加藤松樹
発行責任者 小玉敏央



お茶会によせて

茶道のこころは「一期一会」——お茶会にて誕生者の方々をお持てなしするという企画のため、私が手にした入門書や資料には、深く重い言葉が記してありました。学生の頃の経験は、遙か十数年前というところで、私はある先生に電話をし、茶道のお稽古をお願いしました。先生と向き合う二時間の正座は、不思議と苦にならず、美しく、上品な味のお菓子は素晴らしいものでした。必死ではありましたが、再びお茶の世界に触れ、とても有意義な時間を過ごすことができ、私にとつてまさしく「一期一会」の出会いに感謝する数日でした。

そして、ほのぼの苑でのお茶会当日、職員の協力のもと、会場の玄関ホールはお花や掛け軸、お道具等も整い、お持てなしの雰囲気にも包まれていきました。正装ということもあり、緊張した面もちで席に着かれていた方も、お菓子を口にして、表情が和んでいました。緊張し、お茶を点てる私の心も、いつの間にか無心となり、一服のお茶をお客様である誕生者の方に勧めることが出来ました。一服のお茶で「一期一会」の出会いの場を持つことができたことを嬉しく思います。お茶の香りと紅葉を型取ったお菓子のことが、いつまでも皆さんの記憶の中にあると感じています。不作法多々あったことと思いますが、快くお稽古をつけて下さった千葉静穂先生、職員の皆さん、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

(加藤 真理子 記)



なべっこ

十一月二日、なべっこ当日はあいにくの曇り空。入苑者と天候の回復を願いながら、午前中は太巻き作りに挑戦しました。

巻きすに海苔をのせ、ご飯をしき、お好みで卵やきゅうり巻く作業も、始めは苦戦していましたが、真剣だった表情も、慣れてくると次第に和らぎ、見た目や形がすっかりとした立派な太巻きとなり、「おいしそうだね」と皆さんから、笑顔が見られました。

気になる天候の方も、皆さんの願いが届いたのか、徐々に、雲の隙間から太陽のぞき、なべっこ開始時には、見事な秋晴れとなり、ほのぼの苑玄関前にて、二回目のなべっこが行われました。

なべっこで入苑者をもてなした料理は、大好きなだまこ汁を中心に、お手製の太巻き、ほのぼ農園で入苑者と一緒に育てたサツマイモの揚げ物やキントン、そして綺麗に盛り付けられたフルーツでした。どの料理も好評で、太巻き・だまこ汁は、次々に量が減っていき、「もう一杯だまこ汁くでな」と、既にだまこ汁を三杯も食べている入苑者の姿も見られ、驚きもありましたが、それだけ味の良いものが提供できて良かったなと思えました。また、フルーツが綺麗に盛り付けられているのを見て「おー、すこいね!」と歓声をあげる方も少なくなく、フルーツを口にし、「甘味があつておいしいね」と感激している様子でした。

この日、特に印象的だったのは、やはり

入苑者の笑顔です。当日は、ご家族の方々も参加され、団欒を楽しむ方や、おいしい食事を前に、職員と会話を楽しむ方の表情は、普段体験することが出来ない時間を心から楽しんでいられる自然な笑顔が表れ、強く心に残りました。

(千葉 也寸志 記)



ダイケア 遠足

十月二十六日、その日は爽やかな秋晴れとなり、十三時半に苑を出発し、初めに向かったのは『五城目城』でした。車窓から城を眺めた後、第二の目的地『森山』の頂上を目指し、再び出発しましたが、登っても頂上へは一向に着かず、皆さんの疲れた表情のため息にスタッフ一同、冷や汗が滲みつばなしてました。頂上に着いた時の時刻は、十五時となり、ここまで来るのに一時間半もかかってしまいました。

したが、バスの中から開放され、森山からの絶景を眺めながら、おいしい空気を胸一杯に吸い込みました。「久しぶりだなあ」と、以前訪れたことのある方が話されており、昔を懐かしみ、思い出話に花を咲かせていました。そんな優雅な時間も束の間、登ったばかりの急な坂道を、今度は降りなくてはなりません。再び、バスが傾くのを感しながら、通苑者の方の姿勢が前傾にならないように、身体を支え続けました。

ようやく坂を下り、最終目的地『五城目ジャスコ』に到着したのは十五時半でした。到着後に向かったアイスクリーム屋さんで、好みのアイスを注文し、喉を潤した後、その日のメインイベントであった『買い物』をすることが出来ました。さすが昔の主婦というだけあって、頭の中の買い物リストに添って、買い物をしていきますが、そのスピードと潔さには、

スタッフ一同脱帽でした。一方、男性の方は、趣味の手工芸材料探し、晩酌のためのお酒探しに翻弄されていたりと、お互い減多に出来ない買い物を気ままに楽しませていました。十六時半『五城目ジャスコ』を出発し、帰路につきます。通苑者の皆さんは疲労感一杯の表情でしたが、買い物袋一杯の荷物が、その日の充実感を表していたのではないのでしょうか。

最後に、通苑者の方々より、「ジャスコだけで十分だったよ」と話され、皆さんに喜んでいただきたい一心で、あれこれ計画しすぎたようです。この反省点を活かし、また雪が解け、桜の花が咲く頃、より満足頂ける外出計画を立てていきたいと思えます。

(安田 美穂 記)



今月の小豆知識

「今月の小豆知識」とは、介護する上でアドバイス等を、「豆知識」よりさらに細かく、より味わい深い内容で、ご紹介するコーナーです。

通所リハビリテーションについて

デイケア 細谷 一彦

●通所リハビリテーションとは

通所リハビリテーションは、一般に、デイケアとも呼ばれ、通所リハビリテーション指定事業者によって提供されるサービスです。この事業者は、病院、診療所、介護老人保健施設に限られるという特徴を持ち、医療系事業者による医療的ケアとリハビリテーションの機能がより充実していることが言えます。このことは、スタッフの構成を見ても支援相談員、介護職に加え、看護師（准看護師）、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が利用者に応じて、その員数が勤務することになっていて、そのことから理解できると思います。

●通所リハビリテーションの定義

要介護状態等になった場合、その利用者が可能な限り、その居室において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、理学療法、作業療法、その他必要なリハビリテーションを通所という形で行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図ることとなっています。この定義から見ても、リハビリテーションに重点を置いていることが分かります。

●ほのぼの苑 デイケアの特色

パワーリハビリテーションの開設
平成十七年五月末より、パワーリハビリテーションのマシーンが設置され、始動しています。パワーリハビリテーションは、体に無理なく、負担の掛からない重量で行っていますので、ほとんどの方が楽しく意欲的に参加されています。

サービス提供

平日以外の日曜日、祝日も休まずサービス提供を行っております。
急変事の対応

通苑された際、急に具合が悪くなったり、容態が急変した時も、医療機関が併設されているため、安心して通苑していただけます。

～ほのぼの苑 デイケアのご紹介～

★職員配置

職員 13 名

(管理者 1 名、看護師 1 名、介護職 11 名)

理学療法士 1 名

作業療法士 1 名

1 日の利用定員数 50 名

(1 日平均 利用者数 36 名)

★業務内容

歩行・入浴・食事・排泄・更衣等の介助

レクリエーション

個別リハビリテーション

パワーリハビリテーション

★年間行事

誕生会

外出・遠足

(観桜会、ドライブ、買い物等)

デイケア 1日の流れ

8:30	朝の送迎開始
9:30	ほのぼの苑 到着 体温、血圧、脈の測定(バイタルチェック) 朝の集い
10:00	入浴開始 優先入浴 男性:水曜・土曜 女性:月曜・火曜・木曜・金曜 入浴待ち時間を利用して、リハビリやパワーリハビリを行います。
12:00	昼食
13:00	休憩(ベッドや和室、ソファーにて)
14:00	レクリエーション・リハビリ・パワーリハビリ 手工芸、ボウリング、輪投げ、革細工等
15:00	おやつ 爪切り、耳掃除、ヒゲ剃り
16:00	帰宅準備
16:30	帰りの送迎開始

11月の誕生会・行事のご案内

平成17年11月の誕生会は、お誕生日にご家族の皆様と一緒に
お祝いさせて頂いたり、苑内での記念パレード等の個人誕生会
を行います。個人誕生会の様子は、ベッド側の掲示板に掲載致
します。23日には、誕生者の方とご家族の方が、一緒に焼き物の皿・
コースター・小物類を作成予定です。完成したものは、飾り箱に入
れて、27日に玄関ホールに展示予定です。お楽しみに。



11月行事担当職員一同

ほのぼの掲示板

バイキングのご案内

十二月八日(木) 十二時三十分から十
三時迄、食堂にてバイキングを行います。
皆さんが喜んでいただけるようなメニュー
(お寿司、ハタハタ料理、天ぷら、手打ちそ
ば)と工夫を凝らしてあります。ご期待
下さい。



幸福

寒くなったと思っていたら、天気予報には、雪マークがはじまっている。しかしマー
クは出るものの、この辺りには、少ししか
姿を見せない。妻の実家は青森であり、子
供たちは早速電話をし、「雪積もった？」
と聞いている。義父母にすれば、雪には毎
年泣かされ、殺されそうになるため、憎い
代物である。しかし、今の時期だけは孫の
電話も来ることから、ちよっと嬉しいのか
もしれない。降る時期になると、毎日の除
雪に追われ、玄関より1m近く、家の前の
歩道は高くなってしまふ。我が家のほう
は、さほど積もらないため、その点では嬉
しい。

冬は寒く、灯油代、スタッドレスタイヤ
などで、雪国はお金がかかる。生活もしづ
らくなるのに加えて、金銭面でも追い打ち
をかける。これで人口も減って、過疎にな
っているのかもしれない。結果、子供たち
と近くで暮らしていきたいと思うが、叶わ
ぬ夢かもしれない。

同じ日本に住んでいるのだから、一年毎
に北と南の気候を交替制にしてみたい。雪
が近くなると損な印象を受けるが、もしか
したら雪の良さや秋田の良さがよく分か
るかもしれない。

編集後記

十一月十日、某ホテルにて、広報につい
ての講習会が行われました。その中で広報
活動とは、「計画や出来事の情報を知って
もらい、自分達の考えを共感してもらう」
、「知られることがなければ、好かれること
もない」ということでした。皆さんに好か
れるために、今後より良い広報誌作成を
心掛けていきます。また、皆さんもお気付
きの点がございましたら、ご遠慮なくお申
し出下さい。

(方)